



## 医学部のなかに位置づけられる意義 東北・北海道の国立大学では初開設。

医学部心理支援科学科長 栗林 理人 教授

近年、急速な社会構造の変化、複雑化に伴い、こころの支援を必要とする方が、子どもから高齢者に至るまで各年齢層において増加しています。こころの支援が求められる諸問題としては、うつ病に代表されるような精神疾患、自閉スペクトラム症や注意欠如多動症に代表されるような神経発達症、不登校やいじめ・非行・自殺などの児童思春期における問題、子どもや高齢者に対する虐待、育児や介護、仕事に対するストレス、高齢化が指摘されているひきこもり問題、自然災害や犯罪被害後に生じる心的外傷後ストレス障害(PTSD)等、多岐にわたります。

これらの問題を解決していくためには、保健医療、教育、福祉、司法・矯正、産業・労働等、それぞれの領域における単一領域における支援だけでは



く、各領域における専門職が綿密に連携し、切れ目ない支援を行っていくことが求められています。

このような中で、各領域における専門職の有機的な連携の促進や、高度な心理的支援の提供、心の健康に関する知識の普及を以て、国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的に平成30年度から新たな国家資格『公認心理師』が誕生しました。弘前大学は、このような多職種・多領域にわたる心理的支援の要となる心理支援専門職の養成を地域に根差す大学の責務と考え、令和2年4月に医学部の3番目の学科として、公認心理師養成を想定した学士課程『心理支援科学科』を設置しました。

弘前大学では、かつて教育学部に心理学科が設置されていました。平成26年4月には、東北地区の子どもに対する支援体制の整備や、研究拠点づくりをめざして医学研究科に「子どものこころの発達研究センター」(以下、センター)が設置されました。センターでは、弘前市教育委員会の協力を得て、弘前市内の小中学生に「こころのサポートアンケート」を毎年実施し、子どもたちの発達の特性、情緒、行動等の経年的な変化を追いながら、学校現場への介入を試みてきました。その後、弘前大学医学部と教育学部が協力して短命県返上などを目的とした中南地区連携推進協議会が発足され、センターはインクルーシブ教育システム構築推進事業に参画し、医療・心理学的な視点から学校現場での支援を行ってきました。このたび開設された心理支援科学科では、センターで培った子どもの心に関する研究成果も生かしながら、教育学部時代の心理学科の流れから、さらに幅の広い心理支援へと飛躍・展開していきます。

国立大学の医学部に、公認心理師を養成する学科を開設するのは、東北・北海道地方では初めてです。総合大学のなかに位置づけられる意義は大変大きく、医学部に併設された附属病院において、充実した実習が受けられるのも強みです。

公認心理師は、人と向き合い、多職種と連携しながら課題の解決を援助する仕事です。目前の人に真摯に向き合うことは、自分自身に向き合うことにつながっています。目前の人の「人となり」を理解し、適切なこころの支援や対応について、弘前大学で教育、臨床、研究を通じて学んでみませんか。



### 弘前大学所在機関所在略図(弘前市)

- ①事務局 ②人文社会科学部 ③教育学部
- ④附属小学校 ⑤附属中学校 ⑥附属特別支援学校
- ⑦附属幼稚園 ⑧理工学部 ⑨医学部医学科
- ⑩附属病院 ⑪医学部保健学科／大学院保健学研究科
- ⑫医学部心理支援科学科
- ⑬農学生命科学部 ⑭総合教育棟 ⑮附属図書館
- ⑯保健管理センター ⑰北鷹寮(男子) ⑱朋寮(女子)
- ⑲北溟寮(男子)

### 本学までの案内

- 1.JR奥羽本線弘前駅下車  
(1)駅前中央口からバス  
●桔梗野又は金属団地経由桜ヶ丘団地行き  
本町バス停下車……………徒歩2分
- 駒越経由藤代行き ●茂森新町行き ●四中校行き  
大学病院前バス停下車……………徒歩1分
- (2)駅前からタクシー……………約10分
- 2.弘南鉄道中央弘前駅下車……………徒歩7分



HIROSAKI  
UNIVERSITY

弘前大学

医学部心理支援科学科

SCHOOL OF CLINICAL PSYCHOLOGICAL SCIENCE



弘前大学  
HIROSAKI UNIVERSITY

医学部 心理支援科学科  
School of Clinical Psychological Science

大学院 保健学研究科  
Graduate School of Health Sciences





## 医学部心理支援科学科の3つのポリシー

### アドミッション・ポリシー

医学部心理支援科学科では、科学的思考力を有し、こころの問題を感受し、その問題を解決できる能力や生命に対する高い倫理性と豊かな人間性を有し、悩める人に寄り添い、心理支援としての役割を通して地域住民の健康と福祉に寄与し、社会に貢献する地域のリーダーとなる人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- 心理支援職としての知識と技術を修得するのに必要な基礎学力
- 他職種と連携しチームの一員として心理支援活動を実践するための行動力
- 社会問題や地域の動向に关心をもち、心理支援職として社会に貢献する強い意欲

### カリキュラム・ポリシー

心理支援科学科では、高度な心理学、医学及び保健医療の知識・技能はもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、地域の心理支援のリーダーとして地域住民の健康増進と福祉に貢献できる心理支援職の養成(具体的には公認心理師資格の取得)を目的として、教育課程の編成・実施方針をつぎのように定めます。

**教養教育科目について**

- 國際状況や地域状況を的確に見極める力
- 地域の課題を発見・解決する力

**専門教育科目について**

- 地域で活躍できる心理支援職としての資質
- 公認心理師の国家試験受験資格を満たすために必要な科目。

#### 医学部心理支援科学科において修得させる能力等

- 基本的な医学及び保健医療の知識及び技能
- 専門的な心理学及び臨床心理学の知識及び技能
- 地域において適切な心理支援ができる実践力
- 福祉領域、教育領域、司法・犯罪領域及び産業・労働領域の基本的知識
- 心理支援職としての責任感と倫理観を身に付けた実践力

### ディプロマ・ポリシー

心理支援科学科では、心理学分野における専門的知識・技能等を、医学・保健学分野における基本的知識・技能等を修得するとともに、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、地域の心理支援のリーダーとして地域住民の健康増進と福祉に貢献できる心理支援職の養成(具体的には公認心理師資格の取得)を目的として、教育課程の編成・実施方針をつぎのように定めます。

**教養教育と専門教育を通して培った幅広い専門的な知識、心理学的支援の根幹となる心理学及び主要領域である医学・保健医療の基本的な知識・技術をもとに、地域が抱える心理学的課題の動向を見通す力を身につけていくこと。**

**心理学を中心とした専門的知識・技術を、医学・保健医療分野をはじめとする諸分野で活かすことにより、支援を必要とする者及び地域が抱える心理学的課題を解決する力をもつてていくこと。**

**心理学に基づく支援方法及び医学・保健医療の基本的な知識・技術等を修得し、社会貢献を意識して、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身につけていること。**

## 開講科目・実習

### 開講科目

卒業するためには教養教育科目34単位、専門教育科目93単位(必修80単位、選択13単位)の合計127単位を取得する必要があります。そのためには4年間の計画的な履修が大切です。以下に紹介しているのは専門教育科目の一部です。

#### 1年次 (43単位)

心理学概論、臨床心理学概論、医学概論、保健学概論、早期体験実習、心理学研究法、公認心理師の職責等

#### 2年次 (37単位)

発達心理学Ⅰ、発達心理学Ⅱ、心理学統計法、知覚・認知心理学、感情・人格心理学、健康・医療心理学、心理学実験、神経・生理心理学、学習・言語心理学、臨床心理学演習Ⅰ等

#### 3年次 (37単位)

障害者・障害児心理学、福祉心理学、心理的アセスメント、教育・学校心理学、関係行政論、心理学基礎研究、社会・集団・家族心理学、臨床心理学演習Ⅱ、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、臨床心理学実習等

#### 4年次 (10単位)

生命倫理学、保健医療地域支援実習、臨床心理学研究、卒業研究等

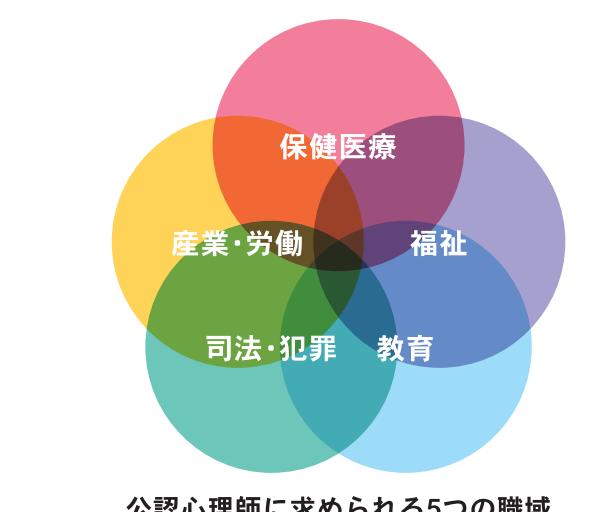
- 取得学位／「学士(心理学)」(Bachelor of Psychology)
- 取得可能な資格／認定心理士(学会認定資格)、児童判定員(任用資格)、心理判定員(任用資格)
- 卒業後の進路／公認心理師受験資格取得のための大学院進学(令和6年度設置予定)、地方上級心理職(心理系地方公務員)、家庭裁判所調査員、矯正心理専門職、法務教官等

### 実習

公認心理師の資格を取得するためには、実習の単位を取得する必要があります。当学科では、医学部附属病院及び教育学部附属小中学校をはじめ、県内の病院、精神保健福祉センター、児童相談所、青森県庁、少年鑑別所などと実習提携を結んでいます。実習前後にはオリエンテーションや振り返りを行い、理解を深めます。実習指導は公認心理師の資格を持つ教員が担当します。

### 実習提携先施設

**【医療】** ■弘前大学医学部附属病院 ■弘前愛成会病院 ■青森県立中央病院  
■青森県立つくしが丘病院  
**【福祉】** ■青森県立精神保健福祉センター ■青森県中央児童相談所  
**【教育】** ■弘前大学教育学部附属小学校・中学校  
**【産業・労働】** ■青森県庁 ■司法・犯罪 ■青森少年鑑別所



## 履修モデル・経済支援制度・入学案内

### 履修モデル

1年生の前期は教養科目が中心となり、幅広い学問分野について学ぶことで見識を広げます。1年生の後期から心理学の専門科目も始まり、専門分野についての学びを深めています。専門科目では、講義だけでなく議論や発表を中心とした演習や、心理学の研究法を身につけるための統計解析法や心理面接のロールプレイなどの実習形式による授業が行われます。

1年生前期	月	火	水	木	金
8:40～10:10	保健学概論	Listening		Reading	
10:20～11:50					
12:40～14:10		ゲーム理論	ウイルスの世界	人を育む営み	
14:20～15:50				人間の尊厳	
16:00～17:30	医学概論	青森の行政		情報処理入門B	

2年生前期	月	火	水	木	金
8:40～10:10					
10:20～11:50	発達心理学Ⅰ			人体機能学	
12:40～14:10		作業療法概論			子供・子育てと地域教育
14:20～15:50		人体形態学			感情・人格心理学
16:00～17:30	心理学統計法				精神医学
					セルフケア論

### 授業紹介

#### 心理学実験

私たちは世界をどのように認識しているのでしょうか? 心理学実験では、さまざまな実験器具を用いて視覚や記憶、注意など、心の機能について検証するための手法を学びます。授業では学生自身が実験を体験し、得られたデータを分析してレポートにまとめます。

#### 発達心理学Ⅰ、Ⅱ

発達心理学の授業では、胎児期から老年期まで、人が生涯を通してどのように発達していくのかを取り上げます。特に、言語や認知、感情、パーソナリティ、自己と他者の関係性などの心理的発達について理解を深めます。また、発達障害や認知症といった、発達の中で支援が必要となる障害や疾患についても学びます。

#### 臨床心理学演習Ⅰ、Ⅱ

臨床心理学演習Ⅰ、Ⅱでは、心理支援の専門家として求められる態度や傾聴の技法について、グループでの心理面接のロールプレイを通じて学びます。模擬面接を行う中で考えたことや感じたことを教員及び他の学生と振り返り共有することで、援助を必要とする人の心理的理得に必要な知識や技術、自らの理解を深めます。



### 入試案内

#### 修業年限／4年

#### 定員／10名

■入学者選抜方(一般選抜)／前期日程／大学入学共通テスト・個別学力検査・出願書類、私費外国人留学生入試／日本留学試験・小論文・面接

